



そろばんは頭をよくする魔法の道具。

Let's soroban

新たな年をお迎え、さあ今年もやるぞ〜と気合いをいれた所で、いったい何回目なの分からないウィルス感染の波。

落ち込んでいても仕方がないので、前を向きながら着実に進んでいきましょう。教室では引き続き感染予防の対策を取りながら授業をおこなっていきます。6年生のみなさんはラストスパートをかけながら、取り組んでいきましょう!

遅い挨拶になってしまいましたが、2022年もよろしくお願いします。

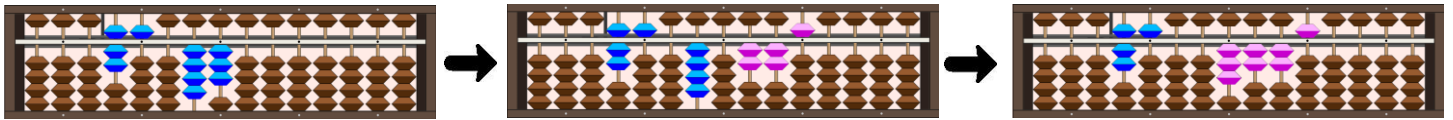
2022

## そろばんの‘かけ算’って(両置き?) (片落とし?) (両落とし?)

そろばん科目の中で、みとり算・わり算とともに大きな存在感(?)を示しているかけ算。そのかけ算には、大きく分けて3パターンのやり方があるのをご存じですか? 例としてここでは  $43 \times 75$  の場合でみましょう。

\*そろばん用語では、掛けられる数(左側)を(実・じつ)、掛ける数(右側)を(法・ほう)と呼びます。

### ① 両置き ...> 43(実)と75(法)の両方とも置くパターン

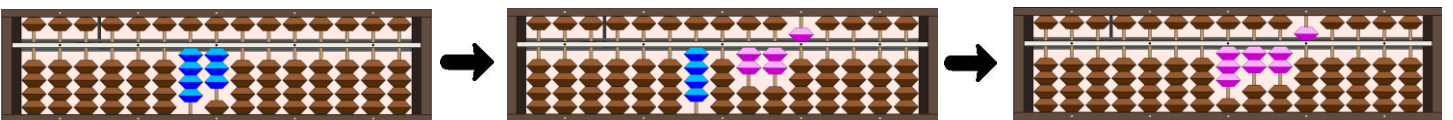


★実を右に、法を左におく →  $3 \times 75$  の答えをおく → 次に  $4 \times 75$  の答えをおく

(メリット) 問題用紙に書かれた数字を見直す必要がなく、そろばんだけを見ればよいため視線の移動が少なくなり、その結果、間違いが少なくなる。

(デメリット) 実・法ともに数字をそろばんに置くため、その分だけ時間がかかってしまう。暗算とやり方が異なる。

### ② 片落とし ...> 43(実)だけを置くパターン

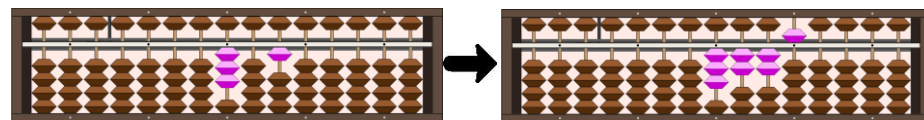


★実だけをおく → まず  $3 \times 75$  の答えをおく → 次に  $4 \times 75$  の答えをおく

(メリット) 法をおかないので、両置きパターンよりも早く計算できる。初心者でも割と簡単に導入できる。応用計算など複雑な計算をするときにミス防止に役立つ。

(デメリット) そろばん1級あたりまではギリギリ対応できるが、段位レベルになると時間が足らなくなる。仮に7ケタ×5ケタのかけ算の場合、7ケタ分の珠をおく時間とはらう時間がダブルでかかってしまい時間ロスが大きい。

### ③ 両落とし ...> 43(実)と75(法)の両方とも置かないパターン



★最初に答えのケタ数を予測した上で、答えのおき始める位置を定める

→ 今回は2ケタかける2ケタなので答えは4ケタになるので、定位点(黒い点)から左に数えて4番目の位置から答えだけをおく →  $7 \times 43$  の答えをおき、その後3番目の位置から  $5 \times 43$  の答えをおく。

★43(実)のほうから掛けても同じ答えになり、熟練者になると実・法のどちらからでも計算できる。

(メリット) ①②と比べると圧倒的に早い。定位点が1の位になるのでゼロの付け忘れがなくなる。練習を重ねると問題を見た瞬間に答えのケタ数(概数)が分かるようになる。暗算と同じ方法なので暗算脳が鍛えられる。

(デメリット) ケタ数が大きくなると答えのおく位置を間違えやすい。計算する数字を見誤る場合がある。きちんと習得するのに時間がかかる。→ 脳をフル活用して集中しないと、正解にたどりつかない。

▽▲▽ 小数のケタ数の数え方 ▲▽▲

◆ 0.5..... → 0ケタ

◆ 0.05... → マイナス1ケタ

◆ 0.005... → マイナス2ケタ

\*例えば  $600 \times 0.008$  の場合、答え(整数)のケタ数は

(実)3ケタ マイナス (法)2ケタ

により、1ケタとなることが分かる。

$6 \times 8 = 48$  となり1ケタ目に小数点を入れ答えは4.8となる。

珠算・暗算での小数かけ算共通のやり方。

ちなみに、両置き・片落とし・両落としという名称は俗称で、正式名称ではありませんが、一定レベル以上のそろばん経験者ならこの言い方で通用します! たぶん…(笑)。

裏面へ